

会 議 録

会議名	平成12年度第3回宇都宮市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	平成13年2月27日(火)午後3時から5時20分
開催場所	宇都宮市役所本庁舎 14A会議室
出席者	【委員】小野里豊、螺良昭人、福田久美子、藤枝実、藤野修逸、赤塚明子、神宮由美子、湯澤博、葭葉リウ、伊藤宣秋、柿沼光子、小林勝義、手塚修、川本由江、田中広 【事務局】檀淵清宇都宮市環境部長、他15名
公開・非公開	公開
傍聴者数	8人
議題	1、宇都宮市ごみ処理基本計画の改定について 2、平成13年度宇都宮市一般廃棄物処理実施計画の策定について 3、答申について 4、その他
会議結果	議題1 原案に今回の意見を反映させる。なお、修正については会長一任
	議題2 原案に今回の意見を反映させる。なお、修正については会長一任
	議題3 原案のとおりとする。なお、答申書は後日会長から市長に提出

発言要旨【議題1関係】	
湯澤委員 (質問)	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ、宇都宮市は一人一日あたりごみ量が、全国と比べて多いのか？</li> <li>最終処分の現状と将来計画について、具体的に説明して欲しい。</li> </ul>
清掃課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみ量を単純に人口で割っているため、本市のように、事業所や学校等が多く、昼間人口比率が高い都市では、市外の人のごみも含めて処理することとなり、一般的に高くなってしまふ。</li> </ul>
清掃施設課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>現長岡最終処分場は、平成16年度当初までと見込まれる。平成15年度を目標に新最終処分場の整備を計画している。</li> </ul>
藤枝委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期計画であるので、数学的な予測だけでなく、政策的な要素を加えて予測すべきだろう。デポジット制度を含め、宇都宮方式といえるようなことを政策的に取り組むよう、要望しておく。</li> </ul>
藤野委員 (質問)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度には焼却灰の埋立量がゼロになるようだが？</li> </ul>
清掃施設課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>その時点では、現焼却工場も更新されることとなるが、その際には焼却灰の熔融設備を整備し、将来的には焼却灰は全量スラグ化したいと考えている。</li> </ul>
田中委員 (質問・意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終処分計画で、「覆土」と「その他」の量が大きく変わるのなぜか？</li> <li>中間処理計画のなかにも、情報開示、住民参加を盛り込むべきと考える。</li> </ul>
清掃施設課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>覆土については、新最終処分場の面積が大きいこと、埋立当初・終了時には特に多く覆土することの二つの理由から。</li> <li>その他については、現在埋立っている下水汚泥の焼却灰が、県で計画の中水道資源化工場にいくことが理由である。</li> <li>情報開示等の指摘については、中間処理計画の整備方針中、「地域との融和」の部分に盛り込みたい。</li> </ul>

小林委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標達成には、取り組みの結果を具体的に定量化し、その結果がもつ意味等を住民に分りやすい形で提供することが大切である。</li> </ul>
清掃課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>今般の数値目標設定を機に、今後、情報提供の強化を図りたい。</li> </ul>
螺良委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終処分量の低減化はスラグ化ばかりではない。生ごみの堆肥化が白紙化されたとか、飼料化に取り組む話しを聞いているが、生ごみ対策が重要である。計画には盛り込んであるのか？</li> </ul>
神宮委員 (質問・意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>飼料化の話しは農務部と連携を取るようだが？</li> <li>長岡の状況を積極的にPRすることも必要である。バスを走らせたかどうか。</li> <li>オムツの処理が今後も問題と思うが、焼却以外はないのか？</li> <li>下水道の整備率は？</li> </ul>
清掃課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画では、民間主導や市主導による生ごみの資源化事業を含めて予測してある。</li> <li>飼料化の試行は平成13年度から開始するため、農務部と共同して、準備を進めている。</li> <li>オムツについては、当面、焼却処理でいかざるを得ないと考えている。</li> </ul>
清掃施設課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>長岡最終処分場の埋立終了部分は、現在、約10分の1の都市公園として利用されている。好評を得ており、今後、PRに努めたい。</li> </ul>
環境部次長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>手元に資料がないが、市街地で97%、市全体で92%と記憶している。(注:合併浄化槽等を含んでの「生活排水処理率」は、市街化区域で94%、市全体で約90%です。訂正いたします。)</li> </ul>
螺良委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生ごみの堆肥化事業を明示すべきである。</li> <li>再使用(リユース)にも触れておくべきである。</li> </ul>
清掃課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生ごみについては、様々な方策に取り組んでいく考えであり、堆肥化も引き続き検討するし、飼料化についても実験していく。</li> </ul>
福田委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>広域的な処理を推進することだが、大型施設には疑問がある。燃やすためにごみを出すといったことに陥る懸念がある。</li> <li>自区内処理が基本である。地域内循環型の処理を考えるべきである。</li> </ul>
清掃施設課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>処理施設整備に当たっては、「適正規模」に留意する。</li> <li>市民生活や事業活動範囲は広がってきており、自区イコール市町村界ではなくなってきている。市町村を超えた連携・役割分担が必要である。</li> </ul>
藤枝委員 (質問)	<ul style="list-style-type: none"> <li>県のRDF発電計画中止の影響は？</li> <li>県の広域化計画があるようだが？</li> </ul>
清掃施設課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>RDFについては、本市は影響ない。大部分の市町村が自前での処理を考えていたので、影響は少ないようだが、氏家や塩谷広域では作ったRDFの処理をどうするか問題となっているようだ。</li> <li>県の広域計画に基づく宇都宮ブロックとしてのごみ処理の計画は、平成14年度に、壬生町を加えた1市5町で策定する予定である。</li> </ul>

赤塚委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5年ローリングとのことだが、ごみをめぐる環境の変化は激しいので、安全衛生面等、迅速な対応が取れないのではないかと。</li> <li>・ 数値目標を設定したことは評価する。しかし、基準年をごみ量が多い平成11年度にしているが、もっと踏み込んだ設定ができなかったのか。</li> <li>・ 減量化・資源化に係る費用削減効果の推計で、「黒字になる」の表現は誤解を招くかもしれない。</li> <li>・ リサイクルも大切だが、資源化した後をよく考えて、進めて欲しい。</li> <li>・ 発生抑制が第一。もっと事業者の責任を迫って欲しい。</li> <li>・ 生ごみ処理機が、家庭用焼却炉の二の舞にならないよう注意すべき。塩分で機械が故障しやすいといった問題がでてきているようだ。</li> </ul>
清掃課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 改定は5年後だが、毎年、評価していきたい。</li> <li>・ 基準年については、12年度の改定であり、直近の11年度とした。なお、国や県の策定年に合わせて、目標値を補正している。</li> <li>・ 生ごみ処理機については、追跡調査を実施するなどしており、問題の早期把握に努めたい。</li> </ul>
川本委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 我が家の3人家族の先週1週間の焼却ごみを調べてみた。全部で5,125㌔。生ごみ3,500㌔は堆肥化、白色トレイ40㌔はスーパーの拠点回収。雑紙340㌔はしの資源物回収、資源化できない紙とプラスチック類1,245㌔を焼却ごみとして出す。 焼却ごみとして出す量は、一人一日あたり59.2㌔である。</li> <li>・ 一人一日あたり1,000㌔以上出していることが信じられない。もっと踏み込んだ目標数値を出して欲しい。</li> <li>・ 生ごみ処理等新しいことを始めるときには、事前に計画の内容を縦覧して欲しい。</li> </ul>
清掃課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標は計画処理量で設定してはいるが、計画の数値を更に上げることは、現実的にはかなり難しいと考える。ご理解いただきたい。</li> <li>・ 具体的に事業を実施していく際には、個別に意見を聞くことも考えたい。</li> </ul>
福田委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生ごみの資源化に取り組むことを盛り込んでいただきたい。</li> <li>・ 発生抑制を強化する具体策を示して欲しい。</li> </ul>
清掃課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発生抑制は意識の啓発であり、目新しい方策は示せない。他都市の事例を参考に計画に示したような地道な取り組みを続けることと考えている。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意見も出尽くしたようなので、以上の意見を踏まえて、修正をすることとしたいが、いかがか？</li> <li>・ 修正については、会長に一任願いたい、いかがか？</li> </ul>
全員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異議なし</li> </ul>
発言要旨【議題2関係】	
田中委員 (要望)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発生抑制の施策を、「環境」問題とリンクさせて、もっと進めて欲しい。</li> <li>・ 電池を、ほぼ完全にリサイクルする会社が群馬県にあるようだ。参考にして欲しい。</li> </ul>
清掃施設 課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボタン電池、ニッカド電池は委託処理する。現在出回っている普通の電池は埋立処理に支障ないとされている。</li> </ul>
福田委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発生抑制のための予算が減ってきている。市民を巻き込んで、検討会を開いてはどうか、討論の場をもってはどうか。</li> </ul>
清掃課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発生抑制のPRは強化する考えである。</li> <li>・ 市民を交えての議論の持ち方については、今後検討する。</li> </ul>

伊藤委員 (質問)	・ 分別が大切だと思うが、どのくらい守られているのか？
清掃課長 (回答)	・ 組成分析調査の際に、分別協力度を調査しているが、それによると、平均で約90%である。 ・ 平成13年度から分別が変わるので、ごみの分け方のチラシを作成した。近々、全戸に配布する予定である。
福田委員 (意見)	・ そのチラシは捨てられることが多い。紙質を良くしたり、カレンダー式にしてはどうか。
柿沼委員 (意見)	・ 現行のチラシで十分だと思う。各人の意識の問題である。
会長	・ 意見も出尽くしたようなので、以上の意見を踏まえて、修正することとしたいが、いかがか？ ・ 修正については、会長に一任願いたい、いかがか？
全員	・ 異議なし
<b>発言要旨【議題3関係】</b>	
事務局	・ 本日は市長が出席できないので、答申書の提出は、後日会長から市長にお願いしたい。 ・ 本日は、提言書(案)について、ご審議願いたい。
会長	・ 後日、会長から市長に提出することよろしいか？
全員	・ 異議なし
福田委員 (意見)	・ 生ごみの資源化を積極的にすすめることの見解も盛り込んでいただきたい。
会長	・ その件については、ごみ処理基本計画に修正を加えることとなっている。 ・ それでは、お諮りしたい。答申書については、原案のとおりとすることよろしいか？
全員	・ 異議なし
<b>発言要旨【議題4関係】</b>	
湯澤委員 (質問)	・ 焼却灰溶融スラグの利用について説明して欲しい。
清掃施設 課長 (回答)	・ 3月には試験施工を行なう予定である。その結果を見ながら、市はもとより各種組合等にも働きかけ、利用の拡大を図りたい。 販売の単価は、現時点ではまだ分からない。